
石川県立美術館だより

平成15年2月1日発行 第232号



石川県指定文化財 横繪図 俵屋宗達

目次

能面と能装束	2	企画展示室、美術館の本、貸出中の所蔵品 ...	6
江戸時代の絵画	2	図書閲覧室NOW、県美Q & A	7
宮本三郎従軍素描、常設展示室 主な展示作品 ...	3	各地の展覧会、二月の行事案内 他	7
展覧会回顧(「利家とまつ」展)	4	所蔵品紹介、ミュージアムショップ通信 ...	8
平成十五年度友の会会員募集	5		

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

常設展示室(前田育徳会展示室)

特集

能面と能装束

2月5日(水)~3月2日(日)

金沢において能が盛んであることを示して「加賀宝生」とよく称されますが、今回は十三代加賀藩主前田育泰と能にまつわる話を紹介したいと思います。

江戸後期の文化八年(一八一二)、金沢に生まれた育泰は、能好きであった父育広の影響を受け、七歳で初めて「狸々」を舞うほどの早熟者でした。当時、江戸では宝生流が勢力を伸ばしていましたが、五代藩主綱紀の頃より宝生流を愛好する加賀藩においてもそれは同様で、金沢城にてのべ六日間にも及ぶ儀式能(文化八年)が行なわれるなど、演能が繰り返されていました。

さて、育泰は三十代に入って、脚気を患うようになります。末梢神経が麻痺し、歩行などが困難になる病気です。その時、能を舞うことがその治療に役立ったと、後にその著「申楽免廢論」の中で述べています。「日課ヲ建テ日々、素仕舞ニ三番ヨリ五六番ヲ重ヌル(中略)、弘化二年正月廿三日ニシテ脚力回復シ、起居動作大抵平生ニ近シ」脚気が治癒した育泰は、その再発を恐れてか、以降盛んに演能を催します。北野天満宮九百五十年祭記念能(嘉永五年)、中納言昇進祝賀能(安政三年)などです。あわせて能装束が盛んに作られました。現在、前田家伝来とされる能装束のほとんどが、この時期に仕立てられたものです。加賀藩の最後を彩った時期と言えましょう。

明治四年に金沢城で育泰の還暦を祝う祝賀能が行なわれた後、廃藩置県により育泰は東京へ移ります。政治的権力を失った育泰でしたが、明治維新により混乱する能楽の保護と復興に努めます。十四年に「能楽社」が発足し、芝能楽堂が開設されましたが、その能舞台に掲げられた「能楽」の額は、育泰の筆によるものです。これまで「散楽」「申楽」と称されていた能と狂言に「能楽」という呼称を与えたのは、育泰とも言われています。能楽社会における前田家の力を示す象徴的な出来事です。

本特集では、このように能楽と深い関わりがあった前田家が所蔵する能面と能装束二十点を紹介します。

今回の特集では、「琳派」を取り上げます。琳派の様式は俵屋宗達によって確立され、尾形光琳によって体系化されました。戦後になってようやく宗達・光琳派などの呼称が、光琳の名前をとった琳派に定着していった背景には、この光琳による体系化に対する歴史的な評価があります。そこには、江戸時代後期の絵画についての論調が、宗達よりも光琳を高く評価しているという事実も加味されていたことでしょう。

しかし昭和三十年代以降、研究の進展と相まって宗達を再評価する気運も高まり、それにもなつて宗達と光琳をつないだ俵屋工房の輪郭も次第に明らかになってきました。それによると宗達は十七世紀初頭には扇の制作から料紙装飾まで幅広く手がける俵屋という絵屋を主宰していたと考えられています。そして、本阿弥光悦らの王朝文化復興の活動にも関与したように、様式分析から、光悦がしたためた古今集や新古今集の和歌の料紙の多くは宗達が手がけたことがわかります。やがて宗達は絵屋の活動とは別に、一人の画家として芸術性を追求するようになります。「法橋宗達」という落款のある名作の数々はこの時期に生み出され、最高傑作「風神雷神図」へと結実してゆきます。そして一六四〇年頃、宗達は没したと考えられます。

宗達の生前から、俵屋は宗達の様式による掛軸や屏風なども制作するより大きな工房となっていたように、複数の有力な画家が関与していました。そして最終的に宗達の後継者となったのが俵屋宗雪であり、前田家の御用を務めたことが機縁となつてか加賀に制作拠点を移したようです。その宗雪を継いだのが喜多川相説であり、宗雪、相説の時代に俵屋ブランドの草花図屏風が数多く制作され、その様式は尾形光琳に継承されるとともに一層洗練され、幅広い層に愛好されてゆきました。今回は宗達および宗達工房から相説までの絵画作品七点と光琳の漆芸作品三点を展示します。

常設展示室(第2展示室)

特集

江戸時代の絵画

2月5日(水)~3月2日(日)



童子の図 俵屋宗達

常設展示室 第3展示室)

特集

宮本三郎従軍素描

2月5日(水)~ 3月2日(日)



印度兵



西貢の靴磨き



マライの少女

今回の特集では、宮本三郎作「南方従軍素描集」全十六点を、一挙公開いたします。

この素描集は、宮本が第二次大戦中の昭和十七年四月から六月にかけて、タイ、マレーシア、シンガポール、香港など、南方に従軍したときに制作したものです。モチーフはすべて人物で、南方に生きる婦人や子供、兵士や捕虜などが描かれています。これらの作品は簡潔な描写でありながら、人々の暮らしぶりや風俗、さらには各人の内面の心の動きまでも、巧みに把握しているようです。

「マライの少女」は、その大きな瞳が印象的で、愛らしい幼子の生き生きとした生命感が伝わってくるような作品です。鉛筆で、形や陰影をすばやく描き、民族衣装などに淡彩をほどこして、華やかな雰囲気を作らせています。

また、この素描集の中には、下層の貧しい母子なども描かれており、宮本が庶民のあるがままの姿を、公平な視点でとらえようとしていたのがわかります。

「西貢の靴磨き」は、香港の西貢というところで靴磨きをしていた少年を描いたもので、厳しい環境のなかで生きるたくましい姿を、真正面からとらえ、軽快な筆致で表現しました。

個人		団体(20名以上)	
一般 350円	大学生 280円	一般 280円	大学生 220円
高校生以下は 無料		高校生以下は 無料	

<p>第6展示室 日本画</p> <p>観覧料 桃鶏図 御水送り神事</p> <p>黒田櫻の園 鈴木華邨</p>	<p>第5展示室 工芸</p> <p>染色・木工 加賀友禅染牛首細 遠州風彫刻桑材飾棚</p> <p>特集 一輸出の華 色絵金彩花詰蓋物 鉄打出鳩置物</p> <p>概要は前号記事をご覧ください</p> <p>明治の工芸 初代池田作美 清水美山 山田宗美</p>	<p>第3・4展示室 油彩画・彫塑・造形・素描</p> <p>油彩画 カサブランカ 熱叢夢 彫塑・造形 裸婦</p> <p>特集 宮本三郎従軍素描 上記案内をご覧ください</p> <p>松田尚之 木下繁 高光一也 宮本三郎</p>	<p>第2展示室 古九谷</p> <p>色絵布袋図平鉢 青手老松図平鉢</p> <p>特集 江戸時代の絵画 はんかい草の図 芥子園</p> <p>伝依屋宗達 喜多川相説</p>	<p>前田育徳会展示室</p> <p>特集 能面と能装束 翁 能面</p> <p>花色地色絵花唐船模様縫箔 能装束 白地網に千鳥模様摺箔 能装束</p> <p>第1展示室 色絵雄雞香炉 色絵雌雞香炉</p> <p>野々村仁清 野々村仁清 野々村仁清</p>
---	--	--	---	--

常設展示室 主な展示作品

2月5日(水)~ 3月2日(日)

●=国宝 =重要文化財 =重要美術品 =石川県指定文化財



桃鶏図 鈴木華邨



鉄打出鳩置物 山田宗美



色絵布袋図平鉢 古九谷


 展覧会回顧

利家とまつ 加賀百万石物語展

この展覧会は、平成十四年のNHK大河ドラマ「利家とまつ」加賀百万石物語」に連動して開催したもので、ドラマ放映の効果と、NHK金沢放送局の徹底した広報活動により、四六、七六六名という多くの鑑賞者がありました。

「利家とまつ」放映決定の発表があつたのが、平成十二年四月。この発表があつてから間もなく、ドラマと連動した展覧会を開きたいので、ぜひ応援していただけないかという依頼が飛び込んできました。過去に放映された大河ドラマの場合を見てみても、ここ数年間は必ず関係した展覧会が開催されていますので、お引き受けすることにしました。

さてテーマとして「利家とまつ」、そして主役級の配役決定の発表はありましたが、ドラマの内容についてはまだ全く不明でした。しかしドラマに連動する以上、登場する人物をある程度関連づける必要があります。特に藩主が何代まで登場するかが、展覧会を構成するためには必要であり、まずその辺が大きな課題となりました。そこでNHKの担当の方々と話し合つてみますと、ドラマ展開の中心となるのはあくまで利家とまつ、そして行動を共にした長男利長まで、三代の利常はほとんど描かれないうらうということが分かりました。



展示室風景

しかし副タイトルの「加賀百万石物語」の響きから連想される「百万石文化」を、展示で構成するということになるべく、どうしても三代藩主

の利常の時代までを含める必要があります。そういう事情もあって、展覧会では大河ドラマをあまり意識せず、思い切つて前田家三代と、そこに育まれた「加賀文化」を紹介しようということに決定しました。

地域の文化を美術館活動の一つとして位置づけてきた当館では、すでに昭和四十八年に「前田利家展」を、昭和五十一年には「前田利常展」を、それぞれ開催し大変な好評を博していました。そこで今度の「利家とまつ」の展覧会では、この二つの展覧会を基本にして構成しようということになりました。ところがここにまた一つの大きな課題が出てきたのです。会場と会期の問題です。最初NHK側から提示された案は、会場が東京、名古屋、京都または大阪、それに金沢の四会場で開催したいこと、また会期は一会場四十日、四会場延べ百六十日間を考えたということでした。

旧館時代に開催した利家展と利常展の場合でも、会期は一月足らず。しかも作品の保存管理上の配慮から、会期を前期と後期に分けて展示替えを行っているほどであり、この案ではおよそ開催することは不可能に近いと、この時点ではお答えしたのです。

そうこうしている間にNHK側からは、関西地区では開催しないこと、各会場の会期をもう少し詰めてもよいという案が出されましたが、それでも作品の保存管理の面から考えると、やはり非常に厳しいという旨を申し上げたのでした。

しかしこれから先いくら議論を重ねていても、開催しなければならぬことは事実でした。ともかくも各会場の展示替えの作品数、三会場を通して展示できる作品は極めて限定されるので、まずは会場ごとの出品作品数という具合に、作品のリスト作りの準備に入ったのが、平成十二年の秋も終わりに近い頃でした。よく考えてみますと、結局は「利家とまつ」というテーマで三組の展覧会を準備することになってしまったわけです。最終的に絞り込んで決定した作品数は二八一点、出品者数一〇八

名、それも北は宮城県から南は山口県までと、ほぼ本州の全地域にまたがることになりました。

さて展示の基本構成は第一部「前田利家人と時代」と、第二部「加賀文化の確立」の二部立てとしました。第一部はさらに第一章「尾張・越前の時代」、第二章「能登・加賀の時代」、第三章「秀吉の補佐役として」、第四章「まつ（芳春院）と家族」の四つに分けて、ほぼドラマの展開にそつた内容としました。肖像画、屏風絵、文書資料、絵地図、遺品等で構成し、利家とまつが生きた時代の政治や社会状況、そして二人の人のなりが理解できるよう多少解説を加えて展示したのです。

第二部では第一章「利家と利長の時代」、第二章「利常の時代」、第三章「江戸屋敷の成立」の三つに分けました。利家、利長、利常の前田家初期三代にわたつて確立されていく「加賀文化」の姿を、主として茶の湯を切り口とし、それに利常によって収集・育成された美術工芸品を加えて、豪華に展示した内容でした。特に当館の金沢会場は、この会場のみにしか展示されなかつた貴重な文化財が数多くあり、関東、関西からわざわざ足を運ばれた鑑賞者も多く、マスコミの企画展を除いた当館主催の展覧としては、史上二番目の入場者数の記録を達成しました。

当館での開催期間中は、ドラマの方でもちようど北陸が舞台の中心となつており、そうした事がより関心を呼んだのかも知れません。また、ドラマの場面と展示作品と異なつていのはどちらが正しいのか、というような質問が数多く寄せられました。こうしたいろいろなのが話題となり、大変よかつたとの高い評価を受けた展覧会でした。ただ、解説の文字が小さく、また暗くて読みづらいつの苦言も多少寄せられており、今後こうした歴史展に近い展覧の解説文のあり方については、考察すべき点があると思われました。

(嶋崎 丞 当館館長)

三月一日(土)から受付開始!!
郵便でのお申し込みは郵便振替で
平成十五年度

友の会会員募集

平成十五年度友の会会員は次の要領で募集いたします。現会員の方で継続をご希望される場合でも、改めてお申し込み下さい。お申し込みがない場合はそのまま退会となります。

募集定員 二、〇〇〇名
会費 一、五〇〇円(郵送料と事務諸経費)

受付期間 三月一日(土)より開始し、募集定員に達し次第締め切ります。

三日(月)、四日(火)は展示替えによる休館日です。ご注意ください。

入会手続き
次のA、Bいずれかの方法でお願いいたします。

A 当館へご来館になり、受付へお申し出下さい。会員証はその場で発行します。

当館中央ロビー奥の図書閲覧室で受付いたします。入会申込書は閲覧室内にも常備してありますが、現会員の方は今回同封の入会申込書(本ページ下図参考見本①)に所定事項をご記入の上、会費(現金)とともにお出し下さい。

受付時間は、休館日を除く午前九時三十分から午後四時三十分までです。

B 郵便振替用紙をご利用下さい。会員証は三月末から美術館だよりと共に郵送します。

同封の郵便振替用紙(入会申込書兼用、本ページ下図参考見本②)に所定事項をご記入の上、最寄りの郵便局窓口へお出し下さい。

郵便振替口座 0070017146490
加入者名 石川県立美術館友の会
払込料金七十円は申込者負担となります。
会員証は、『美術館だより』と一緒に、三月末頃からお送りする予定です。

白色の図書閲覧室受付専用紙(下図参考見本①)や返信用封筒、返信用切手は必要ありませんので、郵送しないで下さい。
振替用紙の受領証は、会費送付の証明となるものですから、お手許で大切に保管しておいて下さい。
郵便局備え付けの振替用紙を使用の場合は、通信欄に左記事項をご記入下さい。

年齢 性別 会員の区別(継続・新規・元) 職業
継続会員の方は現会員番号(会員証裏面左上の番号)その他
会員証の有効期間は平成十五年四月一日～十六年三月末日です。

会員証提示による入館料割引の特典は、同伴者二名まで受けられます。ですから夫婦などの場合はお一人分の入会手続きで結構です。その際ご家族のお名前をお申し出になる必要もありません。
一度納入された会費は、お返しいたしません。
会員証紛失による再発行はいたしません。

会員の特典

入館料の割引

受付での会員証提示により、当館主催展覧会観覧料が団体料金なりに割引されます。また石川県立歴史博物館、石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館の各館主催展覧会でも同様の扱い(ただし同伴者割引なし)となります。

『石川県立美術館だより』の郵送

当館の最新情報をお伝えする『石川県立美術館だより』(毎月一日発行)が毎月郵送されます。会員を対象とした行事のお知らせもありますので、これらに参加することができます。

今回同封した入会申込書(参考見本)

a. 当館図書閲覧室受付専用です。

石川県立美術館友の会 入会申込書				図書閲覧室受付専用	
No. (この番号は係員が記入)		継続会員・新規会員・元会員 (イ・イ以外を○で囲む)		月 日	
住所		〒		見本	
氏名		ふりがな	年齢	性別	男・女
職業		学生・会社員・公務員・団体職員・教員 自営・医療関係・美術関係・主婦・無職 その他 ()		電話	()
備考		※該当するものうち一つだけ○で囲んで下さい。			

b. 郵便申込専用です。ご使用の場合には、必ず郵便局窓口へお出し下さい。

払込取扱票		払込金受領証	
金額 1,500		金額 1,500	
石川県立美術館友の会		石川県立美術館友の会	
石川県立美術館友の会入会申込書(郵便振替申込専用)		石川県立美術館友の会	
1. 継続会員 → 現在の会員番号 ()		1. 継続会員 → 現在の会員番号 ()	
2. 年会令 () 才		2. 年会令 () 才	
3. 性別 男・女		3. 性別 男・女	
4. 学生・会社員・公務員・団体職員・教員・自営・医療関係・美術関係・主婦・無職・その他 (該当するものうち、一つだけ○で囲む。)		4. 学生・会社員・公務員・団体職員・教員・自営・医療関係・美術関係・主婦・無職・その他 (該当するものうち、一つだけ○で囲む。)	
受付局日別印		受付局日別印	

*受付は3月1日(土)からです。また、展示券による休館日は3月3日(日)、4日(月)、29日(土)～31日(月)ですのでご注意ください。
*この入会申込書は図書閲覧室受付専用ですので郵送しないで下さい。郵便でのお申し込みは郵便振替用紙をご使用下さい。

企画展示室

第10回北陸国画グループ展(絵画・写真)

二月六日(木)～十日(月)
(第7・8・9展示室)
北陸国画グループ展は、国画会会員の柏健が中心となつて呼びかけた北陸三県の国画会出品者を主体として構成されています。国画会は、毎年春に本展を東京都美術館において開催し、本年度第77回を迎える公募団体です。今回のグループ展出品者は絵画部の安達博文、柏健、堤建二、寺田栄次郎、開光市、前田昌彦、大森啓、長谷川宏美、本田正史ら二十二名に、写真部の富岡省三、中川保雄、野村輝久ら十九名が参加し、力作を二、三点ずつ発表します。安井賞展、昭和会展などでの受賞者も多く、ハイレベルな作品が期待されます。フリースペース展示では麻田征弥、永津昭晃の作品をまとめてご覧いただけます。是非ともご覧下さい。

入場無料
連絡先 能美郡辰口町緑ヶ丘一 五 横江昌人
☎〇七六一 五一 四一五〇

第21回石川県写真家協会展

二月十三日(木)～十八日(火)
(第8展示室)
20回を節目として、今回の21回展は、気持ちとしては新たなスタートと考えたいと思います。そこでメンバーの中でも若手の発案で、写真展のテーマを「カオスの時代」と名づけました。若い人の発案である「カオス」を、第1回展から20回展まで連続して出品してきたベテランたちは、どう解釈して表現するでしょうか。また、入会して日の浅い若い人たちの感性による表現は、いかなるものでしょうか。

入場無料
連絡先 金沢市尾張町一 七 八 近岡房治
☎〇七六 二六四 三二八八

(社)日本写真文化協会全国写真展

二月十三日(木)～十九日(水)
(第9展示室)
東京都美術館で毎年開催しております文化庁後援による「全国写真展」を、当美術館にて「石川展」として開催いたします。この展覧会は、写真文化の発展と普及に寄与することを目的とした、会員数四五〇〇名

を擁する日本最大の写真団体(社)日本写真文化協会が主催いたします。内容は、第一部(人物)第二部(文化財)第三部(日本の暮らし・風景など)第四部(日本の自然)で構成され、すべて一般公募によるものです。今回は三年前と同じく当協会石川県支部の石川県営業写真協会が担当いたします。多くの方々のご来場をお待ち申し上げます。

入場無料
連絡先 金沢市野町二 一 二 池田正典
☎〇七六 二四一 四一七九

金沢大学教育学部美術教室

卒業・修了制作展
二月十五日(土)～十八日(火)
(第7展示室)
絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術科教育の各分野の学部、大学院生による平成十四年度卒業・修了作品及び論文等パネルを展示します。これらは、教員のほか、多様な分野へ進出をめざす学生達が、自らの学生生活の総決算として地道に努力を重ね、かつ創造的に研究し制作して完成させたものです。展示点数は数十点、是非ご覧下さい。そして忌憚のないご批評、ご助言をお願いします。

入場無料
連絡先 金沢市角間町 金沢大学教育学部美術教室
宮下孝晴
☎〇七六 二六四 五五八三

第26回金城大学短期大学部美術学科卒業制作展

二月二十二日(土)～二十五日(火)
(第7・8・9展示室)
本学美術学科の卒業制作展は26回目となります。今年度はデザイン四十二点、マンガ・キャラクター二十八点、日本画十八点、油画二十点、染色・ファッション二十七点、陶芸・オブジェ二十五点の合計百三十六点を出品の予定です。また各部門の研究生の作品が加わります。是非ともご覧の上、厳しいご批評をいただければ幸いです。

入場無料
連絡先 松任市笠間町二一〇〇 金城大学短期大学部 林可耕
☎〇七六 二七六 四四一一

(美術館の本)

石川県立美術館所蔵品図録 税込定価(円)

石川県立美術館所蔵 開館記念名宝展	一、五〇〇
開館10周年記念特別展 日本美の心	一、〇〇〇
石川県立美術館所蔵 茶道美術名品図録	一、五〇〇
日本のわざと美展 豊饒文化財を支える人々	一、〇〇〇
前田利為と尊經閣文庫	一、〇〇〇
工芸作品と図案 創造への思考	一、〇〇〇
前田利為後400年 利家が著した 桃山時代の美術	一、五〇〇
没後25年 写実と幻想の巨匠 宮本三郎	一、三〇〇
初公開 歐洲随一の日本美術コレクション ランゲン夫妻の眼	一、〇〇〇
石川県立美術館所蔵 九谷名品図録(改訂版)	一、〇〇〇
彫刻家 吉田三郎	一、〇〇〇
花の様式 ナンシー派展	一、二〇〇
花と緑の名品展 自然との対話	一、〇〇〇
日本芸術院会員 大樋長左衛門の世界	一、二〇〇
鳥と語る 詩魂の画家 脇田和展	一、二〇〇

貸出中の所蔵品

色絵人物図古九谷写平鉢	初代須田菁華作
色絵山水図大鉢	初代徳田八十吉作
芦雁大皿	二代松本佐吉作
色絵水鳥図古九谷写大鉢	九谷陶器会社作
	他四点、計八点

ニュージァムショップで販売中!!
郵送ご希望の方は当館へ電話でお問い合わせ下さい。
(☎〇七六 二三一 七五八〇)

展覧会 「至高への敬慕 古九谷を模す」展
会期 二月八日(土)～四月十三日(日)
会場 石川県九谷焼美術館(加賀市)

図書閲覧室NOW

新着図書紹介

今月は、最近当館に収蔵された文化財の修理に関する書籍を、ご紹介したいと思います。

まず、「石川県文化財保存修復工房 修理報告書 平成十三年度/2002/石川県文化財保存修復工房修復者連絡会発行」です。

平成九年に、当館の付属施設として、石川県文化財保存修復工房が発足し、以来五年間、文化財の修理事業を行ってきました。そこではおもに、公共団体指定の文化財や、博物館施設に収蔵されている貴重な文化財などを対象として修復にあたり、修復技術の研究に取り組み、伝統文化の発展に寄与してきました。この本は、平成十三年度に行った修理の中から、各県市町村指定の絵画や古文書八点を取り上げ、その実際の修復内容を、詳細なデータや記録写真をもとにまとめたものです。

次に、「東京国立博物館文化財修理報告書

/2002/東京国立博物館発行」を取り上げます。

東京国立博物館においても、毎年、所蔵品に対する修理を実施してきました。しかし、その状況を、まとまった報告書として館外に示すことは行われませんでした。そこで、平成十一年度より、修理概要を紹介する修理報告書を刊行することになりました。「」は平成十一年度、「」は平成十二年度に行われた修理を対象としています。それぞれ百六十二件、百三十九件の多数におよび、内容も絵画、書跡、彫刻、工芸、考古と多岐にわたり、活発な修復活動が行われているのがわかります。

こうした報告書は、文化財保存関係者にとって有益なものであるとともに、広く一般の文化財の保存に対する理解の一助にもなると思われ、関心のある方はぜひ一度ご覧いただければ幸いです。

開室時間は午前九時三十分～午後四時三十分。貸出し、コピーサービスは行っておりません。

県美 Q&A

薄暗い館内をもっと明るくしたら？

Q) 展示室の照明が薄暗く、展示品の細かい部分がよく見えません。もっと明るくした方がいいと思うのですが…

A) 確かにそうですね。本当はもうちょっと明るい場所で細部まで見ていただきたいのです。ところが、作品の中には光を嫌うものがあり、光に含まれる紫外線によつて色があせてしまつたり、熱による収縮で痛んでしまつたりがあるのです。特に古美術品は、長い年月に耐えてきたものばかりなので、あまり光を当てられないという、苦しい事情があります。どうしてもはっきり見たい場合、まわりの人に迷惑にならないように、ペンライトなどでその部分だけを少しだけ照らすなど（施設によっては禁止のところもある）ので要注意！はできません。展示室までの途中の廊下が暗めなものも、入室する方々の目を慣らしているのです。

各地の展覧会

一月

開催日程 休館日 内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。
 立教開宗750年記念 大日蓮展 2/23まで
 東京国立博物館(東京都台東区・〇三三三八三三) 一一二二二二
 ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作連盟 3/9まで
 ドイツ近代デザインの諸相 2/15～3/30
 東京国立近代美術館(東京都千代田区・〇三三三三三) 七七八八
 離まつりとお人形 2/15～3/30
 京都国立博物館(京都市東山区・〇七五五四一一五) 一一二二二二
 お水取り 2/18～3/23
 奈良国立博物館(奈良市・〇七四二二二三) 五九六二

次回の展覧会

特別陳列 染色パネルの美 (第5展示室)
 特集 婚礼調度と遊戯具(前田育徳会展示室)
 特集 仏教美術 (第2展示室)
 三月五日(水)～二十八日(金)

二月の行事案内

《入場無料・いずれも午後一時三十分から行います》

月日	行事	内容	会場
2/1(土)	土曜講座	保存のはなし	講義室
2/2(日)	CDコンサート	芥川也寸志 「交響管弦楽のための音楽」ほか(約70分) 指揮 芥川也寸志/演奏 新交響楽団	ホール
2/8(土)	土曜講座	日本の金工 12 彫金 2 金森映井智・増田三男・鴨下春明	講義室
2/9(日)	月例映画会	世阿弥の能(48分)	ホール
2/15(土)	土曜講座	明治の工芸鑑賞の手引き 過剰なる装飾 グロテスクという美の世界	講義室
2/16(日)	月例映画会	爪ひとすじに つづれ織 岸田栄吉(25分) 鑄金 齋藤明のわざ(29分)	ホール
2/22(土)	土曜講座	「能楽」 加賀宝生と前田音楽	講義室
2/23(日)	月例映画会	海よりも碧く 宮古上布 砂川玄恒(25分) 肥後象嵌 米光太平(25分)	ホール

今月の全館休館日は二月三日(月)、四日(火)です。



色絵金彩花詰蓋物

清水美山

文久元年(1861)~昭和6年(1931)

明治時代 20世紀

胴径27.4 底径11.8 高14.0(cm)

十八弁の広く張り出した口縁部を持つ蓋物です。身の側面と蓋上部全面に、花詰の文字どおり実に多種多様な花々が、びっしりと描きこまれています。その写実性に富んだ描写力と、騒がしさが少しもないゆるぎのない構成力は、他者の追従を許さない見応えあるものとなっているのはさすがと言えます。また、蓋の上部には、比較的大きな朝顔形のみがつけられており、同じ花でも塑像的なものとして、アクセントとなっていることも見逃せません。

花や葉などの多彩な洋絵具の使い方を見れば、配色の冴えは無論のこと、例えば花弁の縁を盛り上げた白絵具で強調するとか、また、花々の間には盛金を粒状にしたものを数多く置くなど、現在のスーパーリアリズムにも通じる実に入念な作業であることに改めて驚かされます。一方、身と蓋の合わせ目などの縁回りを飾る七宝文などの幾何学的な小紋は、伝統的なものですが、対比の妙を發揮する効果をあげています。

作者は、こうした花詰手の作品を得意としていますが、本作品は其中でも形と意匠が見事に調和した傑作で、まさに代表作と呼ぶにふさわしいものです。また、近年作者自らの筆によるこの作品の図案が再発見され、それにより制作年もほぼ特定できることになったことでも、いっそうその価値が高まっています。

ミュージアムショップ通信



うるみ合鹿碗(左側・定価20,000円)

立春。どんなに寒い日が続いていても、この言葉を聞くと、気持ちは何となく春めいてきます。「冬来たりなば春遠からじ」とはよくいったもの。椿のつぼみもふくらんできたでしょうか。

さて、今月の話題は、お店に入って正面の棚にどっかと在す合鹿碗。どっしりとしていて存在感のあるお碗です。奥能登柳田村は合鹿の里に古くから伝わることから、こう呼ばれるようになりまし。今では、産地にこだわらず大振りで高台の高いものも、俗に「合鹿碗」と呼んでいるようです。これに熱い鱈汁でも山盛りにして豪快に…、いえ、まあそれはさておき、シンプルですがちよつと味のある不思議な美しさがありますよね。使うことに重きをおいた素朴な機能美、とでもいうんでしょうか。それにしても力強いお碗。まずはお手にとつてとくにご覧下さいませ。

休館日

二月三日(月)・四日(火)

石川県立美術館だより

第一二二二二号 平成十五年二月一日発行

〒九一〇 〇九六三 金沢市出羽町二番一号

TEL 〇七六(一三二)七五八〇
FAX 〇七六(二二四)九五五〇